

1. 開催日時：2024年11月7日（木）10時00分～12時00分
2. 開催場所：岡山市中区役所 2階多目的ホールA
3. 出席者：自治体9名、事業所・その他19名、オンライン参加6名、
講師3名、事務局10名 計47名

4. 講演内容

【第1部】事例研究

- ・海洋環境保全とブルーカーボン
岡山大学学術研究院教育学域（理科教育講座・地球科学領域）／佐野 亘
- ・「大崎クールジェンプロジェクト」および「CCS（二酸化炭素の回収・貯留）」について
中国電力株式会社 岡山支社／山本 公介

【第2部】研究会参加者の取組みと事業創出について

- ・地域の資源を活用した真庭市版・脱炭素化の取組み
真庭市 産業観光部地域エネルギー政策課／河本 直貴
- ・今年度の事業創出について
事務局

（敬称略）

5. 配布資料

- 資料1 令和6年度ゼロカーボン研究会の概要と第3回研究会の説明
- 資料2 海洋環境保全とブルーカーボン
- 資料3 「大崎クールジェンプロジェクト」および「CCS（二酸化炭素の回収・貯留）」について
- 資料4 地域の資源を活用した真庭市版・脱炭素化の取組み
- 資料5 今年度の事業創出について

6. 議題

- 1) 本日第3回研究会の概要とテーマについて
研究会の概要と第3回のテーマについて事務局より説明。
- 2) 海洋環境保全とブルーカーボンについて
講演後、下記の通り質疑応答を行った。
 - 質疑応答
中国四国地方環境事務所：グリーンカーボンに対して、ブルーカーボンはどの程度の効果があるのか。
佐野：植物の量としては0.05%以下であり、その値から考えると約2000倍の差がある。
ただし、これは総量に基づく数値であるため、単純に「何倍」という形での比較は難しい。
岡山大学：クレジットを考える際に、海草の成長量や移動についても考慮されているのか。
佐野：含まれている。また、減少率などの指標もあり、どれくらい維持したかなども含まれる。
岡山大学：川などにある水草はブルーカーボンに分類されるのか。
佐野：現段階では、ブルーカーボンには含まれない。

3) 「大崎クールジェンプロジェクト」および「CCS（二酸化炭素の回収・貯留）」について講演後、下記の通り質疑応答を行った。

● 質疑応答

岡山市：CCSの社会実装について、将来的にはいつごろを目標としているのか。

山本：現在は基礎的な調査段階にあり、これを経て今後、実際の設備にかかる費用が試算される。その後、企業として収益性の判断を行う段階になるため、社会実装までにはまだ相当な時間がかかる見込み。

岡山市：回収後の処理方法について知りたい。

山本：トマト栽培や発電所近くの研究所で海藻を培養し、バイオ燃料の研究に活用している。

岡山市：回収した電力は排出係数に含まれているか。

山本：把握していないため、改めて回答する。

(後日回答：試験設備のため、反映されていない。)

岡山市：CCUSについて検討予定はあるか。

山本：化粧品やセメントに使用できないか検討中である。

4) 地域の資源を活用した真庭市版・脱炭素化の取り組み

講演後、下記の通り質疑応答を行った。

● 質疑応答

岡山大学：生ごみ等の液肥化による資源循環を全域で進めるにあたり、回収は週に何回行うのか。

河本：実証中は、週に1回の燃えるゴミの収集日に合わせて、別のトラックで生ごみを回収していた。全市で稼働する際にも同様に燃えるゴミの収集日と合わせて回収する予定である。また、実証時に使用していた生ゴミのバケツ（丸形）では回収量が限られ、かさばるため、より効率的に回収できるよう、四角いバケツを採用することで、少ない台数でより多く回収できるよう改善して進めていきたいと考えている。

岡山市：第2バイオマス発電所の稼働時期および発電量はどのような予定になっているか。

河本：燃料については現在年間11万トンで運用しているが、さらにプラス3万トンの燃料見込みが立っていない状況。稼働時期については、2030年に間に合うかどうか、予定より遅れる見込みではあるが、同規模で作りたいと考えている。

岡山市：順調に稼働した場合、自給率はどのような想定か。

河本：現在は約67%で、発電所をもう1基増設しても100%には達しない見込み。そのため、小水力発電などにも取り組み、省エネ対策も進めながら、最終的に100%を目指したい。

5) 今年度の事業創出について
事務局より説明・質疑なし。

以上